

# 米倉教公の月間為替市場見通し

## 2月号

ドル/円予想レンジ 109.60 - 118.60円

『2月は月初から月末にかけて円高になりやすい月！』

ドル/円の2月勝敗表

2月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	99.53	96.66	-2.87	2.88%	陰線
1996年	107.01	105.2	-1.81	1.69%	陰線
1997年	121.34	120.25	-1.09	0.90%	陰線
1998年	127.00	125.98	-1.02	0.80%	陰線
1999年	115.95	119.34	3.39	2.92%	陽線
2000年	107.32	110.16	2.84	2.65%	陽線
2001年	114.38	116.45	2.07	1.81%	陽線
2002年	134.55	133.51	-1.04	0.77%	陰線
2003年	119.75	118.11	-1.64	1.37%	陰線
2004年	105.6	109.08	3.48	3.30%	陽線
2005年	103.67	104.6	0.93	0.90%	陽線
2006年	117.18	115.77	-1.41	1.20%	陰線
2007年	120.66	118.51	-2.15	1.78%	陰線
2008年	106.42	103.72	-2.7	2.54%	陰線
2009年	89.99	97.66	7.67	8.52%	陽線
2010年	89.86	88.94	-0.92	1.02%	陰線
2011年	82.03	81.78	-0.25	0.30%	陰線
2012年	76.26	81.14	4.88	6.40%	陽線
2013年	91.70	92.53	0.83	0.91%	陽線
2014年	101.99	101.77	-0.22	0.22%	陰線
2015年	116.93	119.58	2.65	2.27%	陽線
2016年	121.31	110.96	-10.35	8.53%	陰線
平均			0.06	2.44%	9勝13敗

### ★2月は円高になりやすい月

1995年以降の過去22年間のドル/円では、9勝13敗と始値から終値で陰線なることが多くとなっている。一方、値幅での平均値は0.06円の円安となっている。ただ、昨年は10.35円過去最大の円高となった。変動率は始値から上下に2.44%の変動率となっている。2月は米国債券の利払い・償還があり、本邦機関投資家のレパトリによる円買い・ドル売りが入りやすい。2月10日には、日米の2国間の貿易・投資関係強化を協議する首脳会談が予定されている。米国の対日貿易赤字削減に加え、円安・ドル高の抑制が議題に上がる可能性がある。トランプ米大統領は、相手国の通安誘導を厳しく制限していくと語っていることから、ドル高を抑制する『為替条項』の導入を強要される可能性もあり、円高要因となりやすい。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。

### ★ドル/円週足では円安基調を継続

週足チャートでは、6日週以降徐々に上値を切り下げ下値も切り下げる下落基調となっている。さらに、月足20ヵ月線の113.73円を確り下回るようなら、ヘッジファンドなどの円売りの巻き戻しや、円買い・ドル売りのポジション形成に動いてくる可能性が高い。週足ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）は、%K：75.79、%D：78.13と買われ過ぎ域から下向き傾向となっている。一方、ロウソク足が13週線を下抜けしてきていることから下落しやすい地合いとなっている。ただし、下値には各移動平均線が位置しており、200週線の109.635円が下落時のサポートとなりやすい。中期的には、26週線と52週線がわずかにゴールデンクロスしてきていることで、上昇基調は維持されている。反転するには前週の上値・下値の切り上げる必要がある。



## ★まとめコメント

2017年に入ってから週足では上値切り下げ・下値切り下げの下落基調の典型的動きとなっている。そのため、反転するには前週の高値を切り上げる動きとなる必要がある。また、13週線（赤線）を下回ってきたことから、確り下抜けしてしまうと13週線がレジスタンスラインとなりやすい。2月は米国債券の利払いと償還がある。日銀がマイナス金利政策導入後、本邦機関投資家は外国債券投資が活発になっていることから、利払いや償還に伴う円転量も大きなものとなっている。また、過去22年間において、始値より終値で円高になる可能性が高いことも注意が必要となる。

2月10日には、日米の2国間の貿易・投資関係強化を協議する首脳会談が予定されている。米国の対日貿易赤字削減に加え、円安・ドル高の抑制が議題に上がる可能性がある。トランプ米大統領は、相手国の通安誘導を厳しく制限していくと語っていることから、ドル高を抑制する『為替条項』の導入を強要される可能性もあり、円高要因となりやすい。今までトランプ米大統領は公約で言っていたことを、良きにつけ悪しきにつき実行していることから、今回の首脳会談でも円安に対する『為替条項』をのまされてしまう可能性も高い。そうすると、米国が利上げを加速させても『為替条項』により円安の進行が抑制される。また、サプライズ的な円高基調になりやすいことには警戒が必要だ。

## ★2月の主なイベント

- ・2月01日：中国1月製造業・非製造業PMI、米1月ISM製造業景況指数、米FOMC結果公表
- ・02月02日：英MPC・議事録及び四半期インフレ報告公表
- ・02月03日：中国春節明け、中国1月財新製造業PMI、トルコ1月消費者物価指数、「単一市場からの離脱に関する」英最高裁の判決、EU27か国非公式会議（英国を除く）、米1月ISM非製造業景況指数、米1月雇用統計
- ・02月07日：RBA理事会、中国1月財新非製造業PMI
- ・02月09日：NZ中銀政策金利公表、メキシコ中銀政策金利発表
- ・02月10日：日経平均オプションSQ、中国1月貿易収支、安倍首相訪米・トランプ大統領と会談
- ・2月13日：日本10-12月期GDP・一次速報
- ・02月14日：中国1月消費者・生産者物価指数、ユーロ圏第4四半期GDP・改定値、イエレンFRB議長議会証言（上院銀行委員会）
- ・02月15日：英1月雇用統計、米1月小売売上高&消費者物価指数
- ・02月16日：豪1月雇用統計
- ・02月21日：ブラジル中銀政策金利公表
- ・02月22日：米FOMC議事録（1月31日-2月1日開催分）
- ・02月23日：英第4四半期GDP・改定値
- ・02月27日：アストロ=為替・NYダウ変化日（28日まで）
- ・02月28日：米第4四半期GDP・改定値、トランプ大統領・議会演説（一般教書演説）、ギリシャ債務期日
- ・02月xx日：トランプ大統領・予算教書提出、カナダ首相及びイスラエル首相と会談

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。